

豊かな自然の恵みの中で育まれたアイヌ文化

アイヌ民族は、古くから北海道を中心に東北地方北部及びサハリン（樺太）南部、千島列島に先住してきた人たちです。独自の言語を持ち、本州や大陸など周辺の文化と互いに影響し合いながら豊かな文化を形成してきました。漁狩猟・採集が生業の基盤でしたが、東北地方や大陸との交易も盛んに行っていました。江戸時代中ごろからの松前藩による支配、明治以降の同化政策などで独自の文化は否定され、搾取や差別を受けるなど、苦難の道を歩んできましたが、その文化は受け継がれ、今日に伝えられています。



荒木 繁

[右画像] 右: 熊ループタイ 各 3,000 円

左: 熊サケだっこ 20,000 円

[左画像] 熊ロアキ 50,000 円



山田 祐治

[右画像] ボトル熊 8号黒 8,500 円

[左画像] 右: 木鬼サケケイ熊 3号 5,400 円

左: 木鬼座り熊 3号 5,800 円



木彫

アイヌのものづくりは、近年、伝統性を残しつつも、個性を表現したり、現代感覚にあったものへと変わってきています。

特に、木彫では置物からアクセサリーまで用途も多彩な作品が作られ、北海道を代表する土産物になりました。



吉田 信男

[上画像]

木のスタンド 50,000 円

[下画像]

右: ブレスレット 各 10,000 円

左: マグカップ 6,000 円